

1 1 (平成29年度・参考調査) リーフレタス冬季栽培調査

試験の目的

平成26年度から平成28年度の冬期野菜栽培品目検討試験において、栽培可能性のある品目としてリーフレタスを選定しました。そこで使用していた品種であるアーリーインパルスは、低温伸長性は高い一方で、株幅・葉長ともに大きく、袋詰め作業が困難でした。また、1月中旬以降は褐変症状や剥離症状が生じることから、他品種の無加温での冬季栽培特性を比較検討しました。

関係先

市内生産者・市内直売所

試験概要

- (1) 播種日 9月11日
- (2) 定植日 9月26日
- (3) 栽植密度 条間30cm, 株間30cm, 千鳥植え, 10a当たり11,111株
- (4) その他
 - ・無加温
 - ・内張カーテン, トンネル使用。

供試品種

品種名	販売元
アーリーインパルス (標準)	みかど協和
グリーンステージ	住化農業資材
グリーンリーフ2号	ツルタのタネ
マリノ	横浜植木
ノーチップ	横浜植木

試験結果

(1) 概要

栽培期間中の気温は、平年並みでした。どの品種も順調に生育し、11月中旬から11月下旬にかけて、一株重200gに到達しました。11月下旬頃から低温により作物の凍結が見られましたが、その数日後には解凍し、葉の傷み等はありませんでした。しかし凍結と解凍を繰り返すことにより、徐々に外葉の萎れや、内葉と株元の褐変症状及び水浸軟化、表皮の剥離などが発生しました。どの品種も、1月中旬には葉の萎れが著しくなったため、調査を終了しました。

虫害として、定植直後にネキリムシ類とバッタ目による食害が見られました。

(2) まとめ

9月下旬に定植する作型において、耐病性、低温伸長性共に、アーリーインパルスが最も適していると考えられました。供試品種の中では褐変症状及び表皮の剥離症状の障害の発生が少なく、かつ低温伸長性が高く、コンパクトでした。

(3) 補足

グリーンステージは褐変症状が早期に発生しましたが、アーリーインパルスよりも低温伸長性に優れる傾向が見られ、12月中旬頃までに収穫を終えるならば、アーリーインパルスよりも遅い時期の播種・定植の作型に用いることができ、圃場使用時期を後退させられることが推測されました。



図1 アーリーインパルス



図2 グリーンステージ



図3 グリーンリーフ2号



図4 マリノ



図5 ノーチップ

全て平成29年12月14日撮影

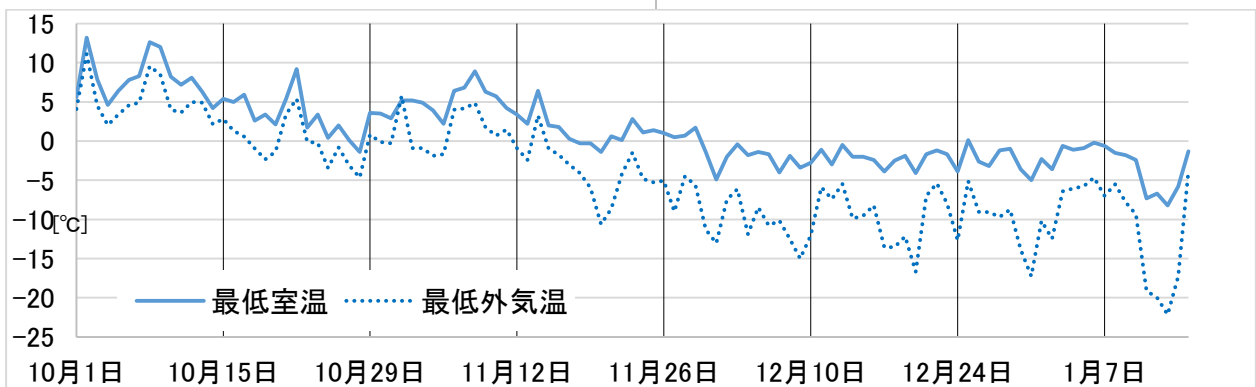


図6 栽培期間中の室温及び外気温（測定期間 H29/10/1-H30/1/15）